平成１９年１月３１日

従業員各位

株式会社　徳　・株式会社傳六
株式会社　傳七・有限会社和公
代表取締役　鷺岡和徳

前略、今月も業務に専心いただきありがとうございます。
私がこの飲食業に携わってすぐに「坂村真民」という詩人の「二度とない人生だから」という詩と出会う機会があり、今まで何度も辛いとき苦しいときその詩に励まされた記憶があります。（別紙記載）その坂村真民先生が昨年の年末に98歳で亡くなられました。明治42年生まれで８歳の時に父親が急逝、３６歳の母親は乳飲み子を抱え５人の子供を女手ひとつで育てどん底の生活の中、自分の履く草履は自分で作り、学用品を得るべく石炭俵を編む内職もし、母は山畑を借りて開墾し蕎麦やジャガイモを作って生活をされていました。そういう苦しい日々の中で愚痴を言う代わりに母がいつも唱えていた言葉「念ずれば花開く」。この言葉が新民先生の詩魂に火をつけ、詩道一筋の人生を歩む原点となったそうです。「自分と言う人間を作り上げるために、そして人々の心に火を灯すために」苦しみから立ち上がる詩を一生涯に渡って書き続けられました。

- こつこつ／こつこつ／書いてゆこう
- この痩せた体をひとつの事に費やしたい／多くのことは出来ないから／一つのことでこの世を終わろう
- よわねをはくな／くよくよするな／なきごというな／うしろをむくな／ひとつをねがい／ひとつをし遂げ／はなをさかせよ／よいみをむすべ

一つの事を貫く人の生き方は厳しいことは承知のとおりです。真民先生の胸にはいつも嵐が吹いていたのだろうと察します。しかしそれ故にひとつの事を貫く人の生き方は美しいと私は思います。貫くものを持ち、心に美しい火を燃やし、私に尊い人生を生きよと教えてくれた人のご冥福を心から祈りたいと思います。

徳グループ2007年スローガン

「熱意を持って仕事に取り組もう」

社是

「私たちはお客様のために常に新しいことに挑戦し、食生活に新たな価値を創造しつづけます。」

すべては自分のために。
すべてはお客様のために。
すべては会社のために。
すべては社会のために。

来月も一緒に頑張りましょう

草々

二度とない人生だから

坂村 真民 作

二度とない人生だから一輪の花にも無限の愛を そそいでゆこう
一羽の鳥の声にも無心の耳を かたむけてゆこう

二度とない人生だから一匹のこおろぎでもふみころさないように
こころしてゆこうどんなにか よろこぶことだろう

二度とない人生だから一ぺんでも多く 便りをしよう
返事は必ず 書くことにしよう

二度とない人生だからまず一番身近な者たちにできるだけのことをしよう
貧しいけれどこころ豊かに接してゆこう

二度とない人生だからつゆくさのつゆにもめぐりあいのふしぎを思い
足をとどめてみつめてゆこう

二度とない人生だからのぼる日しずむ日まるい月かけてゆく月
四季それぞれの 星々の光にふれてわがこころを あらいきよめてゆこう

二度とない人生だから戦争のない世の 実現に努力しよう
そういう詩を一篇でも多く 作ってゆこう
わたしが死んだらあとをついでくれる 若い人たちのために
この大願を 書きつづけてゆこう